

ずいひつ No.98

2014年5月25日発行

雨の休日に読書はいかが？

私の趣味は読書です。履歴書にもそう書いてきたし、プライベートな自己紹介でもそう言っています。舞台鑑賞も趣味と公言していますが、好きな時に好きなだけ、ほんのちょっとの時間でも楽しめるという点においては、読書には敵いません。好きなジャンルはミステリ小説で、いわゆる「フーダニット」、犯人当てに焦点が当てられているものを好んで読んでいます。主人公が警察組織に属しておらず、一般市民であればもっと好みで、更に言えば「社会派」と呼ばれるものより「本格」と呼ばれる推理小説が好きなのですが、掘り下げると長くなるので割愛します。

ミステリに傾倒したのは高校を卒業した頃で、手当たりしだい読んでいました。大手出版社の小説雑誌が設けた、新人作家を対象とした賞の受賞作品や、その受賞作の推薦文を書いている作家に狙いを定めて読んでいた時、何気なく手に取った1冊、『すべてがFになる』で森博嗣という作家と出会いました。著者略歴には「愛知県出身」「某国立大学工学部助教授」とあって、当時は『理系ミステリ』などと言われて話題になっていたようですが、私にとって森博嗣という人は、タイトルに特徴がある小説を書く、たくさんいる小説家の一人ではなかったかありませんでした。

子どもの頃から本を読むのが好きだったのに、読書感想文を書くのは嫌いでした。本を読んで思ったこと、感じたことについて、他人にとやかく言われる筋合いはないと思っていました。本を読んだ感想は個人的なものでしょう？ 人に伝えなければいけないものではないと今でも思っているのです。

そしてもう一つ、あまり好きではないジャンルの本があります。いわゆる『自己啓発本』と呼ばれるものです。書いている人の価値観を押し付けられているような気がして、読んでみようと思えないのです。自己啓発本を読んで、読んだ人全員が全てをその通りに実践できたら、ワーキングプアやブラック企業など存在しないと思いませんか？

そんな私にも、人に薦めたい、みんなも読んでみたらいいのに、と思う本はたくさんあります。おもしろい本教えてください、と言われたら大概ミステリ小説を貸しますが、文芸本だからと言って、娯楽のために読み捨てられる本ばかりではないと思います。自己啓発本を読まなくても、自分の価値観を揺るがす一文に出会うこともあれば、それまで自分が信じていた事柄が、実は間違いだったと気付かされることもあります。自分が知らず知らずのうちに、固定概念に縛られていたと思うことも。私が一番揺さぶられたのは、先述した森博嗣氏の著作でした。小説を読んでいて、作家のものの考え方に興味を抱いたのは初めてで、森氏が某国立大学の助教授だった頃、学園祭の講演会に行ったこともありました。聴講希望者多数で入れませんでした…。森氏は四十代後半に大学を辞め、『作家』という肩書にも執着せず、現在では一日に一時間だけ仕事をしているそうです。そのため小説家と呼ばれていた頃に比べると、新作の小説はあまり発行されませんが、新書はたびたび発行されます。歯学・薬学図書館情報センターにも何冊か所蔵がありますから（写真参照）、興味があったら読んでみてください。